

# 定期作況報告

平成27年7月  
(7月20日現在)

北海道立総合研究機構 北見農業試験場

# 1. 気象経過

6月下旬：最高気温、最低気温および平均気温はともに平年より極めて低かった。降水量は平年並であった（平年比84%）。日照時間は平年より少なかった（平年比57%）。

7月上旬：最高気温は平年より低く、最低気温および平均気温はともに平年より極めて低かった。降水量は平年より少なかった（平年比60%）。日照時間は平年よりやや多かった（平年比122%）。

7月中旬：最高気温は平年より極めて高く、最低気温は平年よりやや高く、平均気温は平年より極めて高かった。降水量は平年より少なかった（平年比8%）。日照時間は平年より多かった（平年比177%）。

以上のことから、この1か月間（6月下旬～7月中旬）は、気温は平年よりやや低く、降水量は平年より少なく、日照時間は平年並であった。

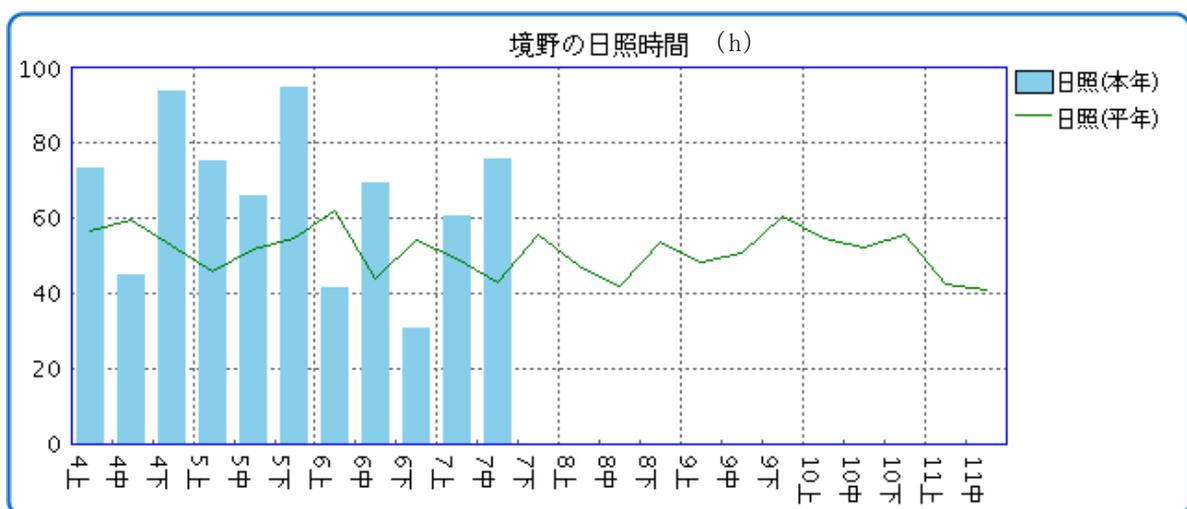
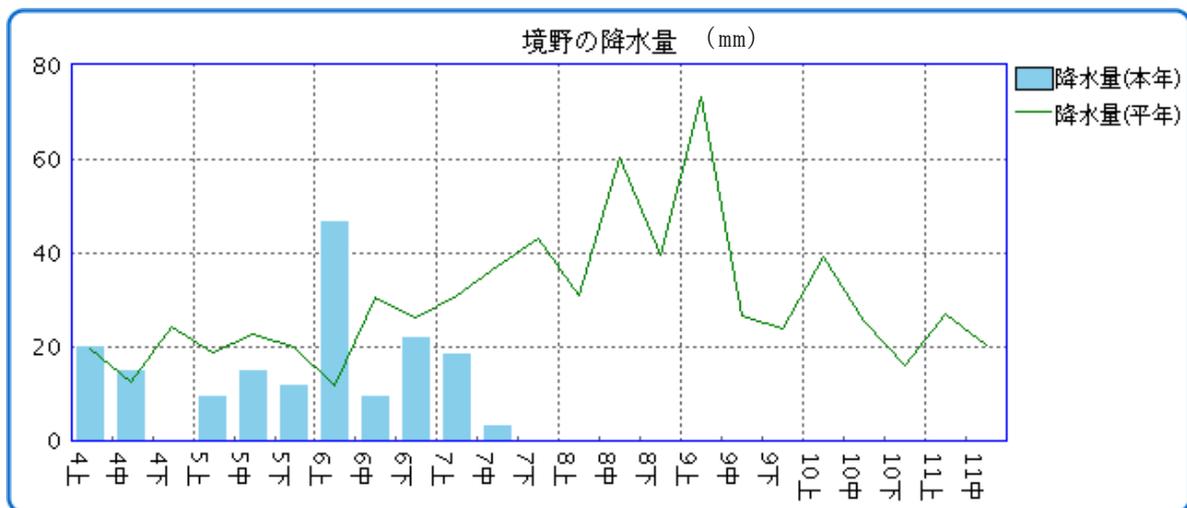
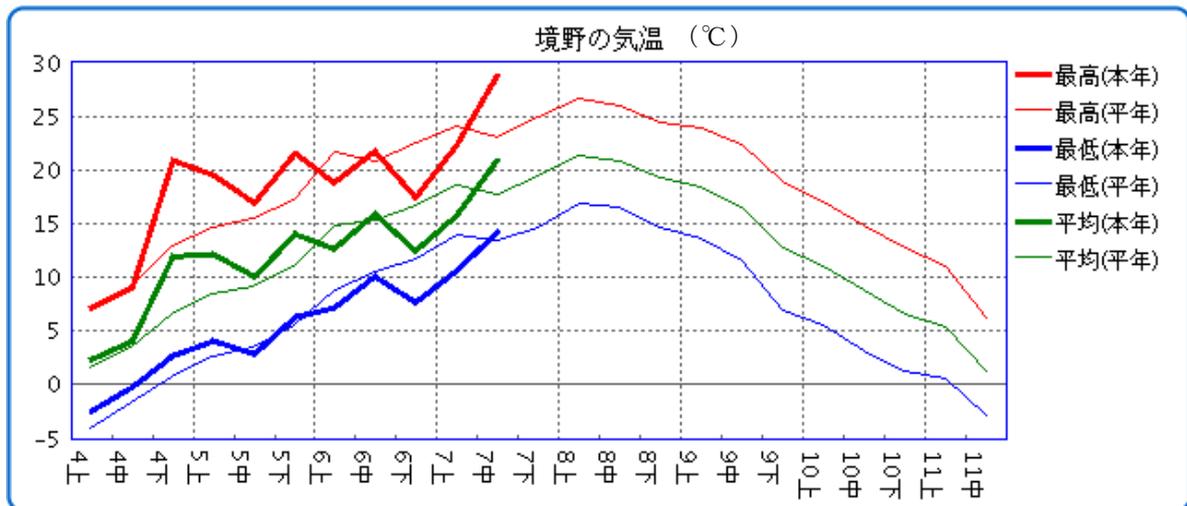
気 象 表

月 旬	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
6月 下旬	12.4	16.7	-4.3	17.5	22.6	-5.1	7.6	11.8	-4.2
7月 月上旬	15.8	18.6	-2.8	22.2	24.1	-1.9	10.5	13.9	-3.4
7月 中旬	20.9	17.8	3.1	28.8	23.0	5.8	14.1	13.5	0.6

月 旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
6月 下旬	22.0	26.1	-4.1	30.9	54.2	-23.3
7月 月上旬	18.5	30.9	-12.4	60.6	49.5	11.1
7月 中旬	3.0	37.2	-34.2	75.8	42.9	32.9

注) 観測値は置戸町境野のアメダスデータである。

10年平均は前10か年間の平均値である。



## 2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、オホーツク管内全体を代表するものではありません。

### 1) 秋まき小麦 作況：平年並

事由：6月下旬～7月上旬の平均気温が平年より極めて低く推移したため、登熟は一時緩慢となったが、その後の高温により順調に進んでおり、成熟期は平年より数日早くなる見込みである。稈長は平年よりやや短い、穂長、穂数は平年並である。倒伏は未発生である。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	きたほなみ		
	本年	平年	比較
稈長(cm) (7月20日)	82	87	△5
穂長(cm) (7月20日)	8.3	8.8	△0.5
穂数(本/m <sup>2</sup> ) (7月20日)	697	716	△19

注) 「きたほなみ」の平年値は前7か年中、平成22年(最凶)、25年(最豊)を除く5か年の平均。

### 2) 春まき小麦 作況：やや良

事由：6月下旬の気温が極めて低かったことから、開花の進みは緩慢であった。稈長は平年並からやや低く、穂長は平年並であったが、穂数は平年より多い。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	春よ恋			はるきらり		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
稈長(cm) (7月20日)	93	94	△1	87	92	△5
穂長(cm) (7月20日)	7.9	8.2	△0.3	7.4	7.5	△0.1
穂数(本/m <sup>2</sup> ) (7月20日)	732	543	189	721	564	157

注) 平年値は前7か年中、平成21年(最凶)、24年(最豊)を除く5か年の平均。

3) とうもろこし (サイレージ用)

作 況 : やや不良

事 由 : 6月下旬から7月上旬にかけての平均気温が平年より極めて低かったため、葉数は平年並であったが、草丈は平年を下回った。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	チベリウス		
	本年	平年	比較
草丈(cm) (7月20日)	150.4	174.1	△23.7
葉数(枚) (7月20日)	12.5	12.3	0.2

注) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、25年(最凶)を除く5か年の平均。

4) 大 豆

作 況 : やや不良

事 由 : 6月下旬から7月上旬の低温により、生育は平年より遅れており、7月20日現在で開花始に至っていない。本葉数は平年並であるが、主茎長は平年を下回り、分枝数も平年をやや下回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	ユキホマレ		
	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	—	7.18	—
主茎長(cm) (7月20日)	46.7	55.9	△9.2
本葉数(枚) (7月20日)	7.4	7.5	△0.1
分枝数(本/株) (7月20日)	4.0	4.7	△0.7

注) 平年値は前7か年中、平成21年(最凶)、23年(最豊)を除く5か年の平均。

## 5) 小豆

作況：不良

事由：6月下旬から7月上旬の低温により、生育は平年より遅れている。主茎長と分枝数は平年をかなり下回っており、本葉数も平年を下回っている。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目	サホロショウズ			エリモショウズ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	—	7.21	—	—	7.23	—
主茎長(cm) (7月20日)	12.8	25.0	△12.2	13.5	22.5	△9.0
本葉数(枚) (7月20日)	5.7	7.0	△1.3	6.1	7.1	△1.0
分枝数(本/株) (7月20日)	0.3	3.4	△3.1	0.3	3.2	△2.9

注) 平年値は前7か年中、平成20年(最豊)、24年(最凶)を除く5か年の平均。

## 6) 菜豆

作況：やや不良

事由：6月下旬から7月上旬の低温により、生育は平年よりやや遅れており、開花始は平年より4日遅く、草丈は平年を下回っている。本葉数と分枝数は平年並からやや上回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	大正金時		
	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	7.12	7.8	4
草丈(cm) (7月20日)	34.9	46.6	△11.7
本葉数(枚) (7月20日)	3.6	3.2	0.4
分枝数(本/株) (7月20日)	5.7	5.1	0.6

注) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、25年(最凶)を除く5か年の平均。

7) ばれいしょ 作 況：平年並

事 由：6月下旬は低温であったものの、萌芽が平年より早かったことから、開花始は平年より1～3日早かった。7月上旬および中旬の降水量が少なかったことから、両品種ともに茎長は平年をやや下回っているが、茎数はほぼ平年並である。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	男爵薯			コナフブキ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	6.30	7.1	△1	6.28	7.1	△3
茎長(cm) (7月20日)	46	50	△4	65	70	△5
茎数(本/株) (7月20日)	3.8	3.8	0	3.1	3.6	△0.5

注) 平年値は前7か年中、平成22年(最凶)、24(最豊)を除く5か年の平均

8) てんさい 作 況：やや不良

事 由：6月下旬から7月上旬の平均気温が極めて低かった影響で生育が遅延し、草丈、生葉数、茎葉重はいずれも平年を下回り、根重は平年並～平年をやや下回った。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	移植						直播		
	モノホマレ			アーベント			リッカ(参考)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
草丈(cm) (7月20日)	54.2	57.1	△2.9	51.6	53.6	△2.0	41.7	53.4	△11.7
生葉数(枚) (7月20日)	19.9	22.1	△2.2	18.8	21.2	△2.4	13.3	16.8	△3.5
茎葉重 (g/個体) (7月20日)	549	676	△127	506	662	△156	267	483	△216
根重 (g/個体) (7月20日)	267	269	△2	273	286	△13	97	160	△63
根周(cm) (7月20日)	22.0	21.5	0.5	23.0	23.0	0.0	15.6	19.0	△3.4

注1) 平年値は前7か年中、平成26年(最豊)、22年(最凶)を除く5か年の平均。

注2) 直播「リッカ」は参考品種、平年値は前5か年の平均。

9) 牧草(チモシー)

作況：不良

事由：1番草の乾物収量は平年比83%で、作況は不良であった(前報)。7月上～中旬の降水量が平年より少なかったものの、2番草再生時の草丈は平年並で、欠株の発生も認められなかった。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目	ノサップ		
	本年	平年	比較
被度(%) 2番草再生時(7/14)	100	100	0
草丈(cm) 2番草再生時(7/14)	38	38	0

注) 平年値は前7か年中、平成21年(最凶)、24年(最豊)を除く5か年の平均。

10) たまねぎ

作況：やや不良

事由：6月下旬以降、降水量は少なめに推移し、6月下旬から7月上旬の平均気温が極めて低かったため、球肥大は遅れている。両品種ともに草丈および生葉数、葉鞘径、葉身生重は概ね平年並であるものの、球生重は平年を下回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	改良オホーツク1号			スーパー北もみじ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
球肥大期(月・日)	7.11	7.6	5	-	7.21	-
草丈(cm)(7月20日)	80.1	78.5	1.6	83.1	81.9	1.2
生葉数(枚)(7月20日)	9.0	9.2	△0.2	9.8	9.9	△0.1
葉鞘径(mm)(7月20日)	20.5	20.8	△0.3	20.5	20.9	△0.4
葉身生重(g)(7月20日)	123.5	129.9	△6.4	131.2	136.7	△5.5
球生重(g)(7月20日)	85.0	120.8	△35.8	42.8	68.1	△25.3

注) 平年値は前8か年中、平成19年(最豊)、20年(暴風雨被害により成績を参考扱いとしたもの)、25年(最凶)を除く5か年の平均。